

クラス	TU301	担当教員	赤石 憲昭
テーマ	「承認」の哲学		
著書・論文 研究課題等	「ホネットの批判的社会理論の批判性：現代における労働と承認の問題圏」 『情況』（特集：ドイツ現代思想の行方）11・12月号、情況出版、2007年 「希望はテロ」の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察」 『リブレーザ』第7号、社会評論社、2008年 「ヘーゲルのジェンダー論をどう読むか？：ヘーゲルの男女観に関する一考察」 木本喜美子ほか編『ジェンダーと社会：男性史・軍隊・セクシュアリティ』旬報社、2010年 「丸山眞男の民主主義論の再検討：日本の民主主義の危機的状況の理解と打開のために」 平子友長ほか編『危機に対峙する思考』梓出版、2016年 研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論、ジェンダー論		
ゼミナール概要			
キーワード：承認、善く生きる、自己肯定感、自由、民主主義			
ゼミのテーマ 「承認」（認めること／認められること）は、人間が人間らしく生きていく上で欠かせないものです。この「承認」を一つの主要な切り口として、人間らしい発達のあり方および人間らしい生き方について、人間それ自体だけでなく、社会や国家との関係をも視野に入れながら、総合的に探求しようというのが本ゼミの中心テーマです。ドイツの哲学者アクセル・ホネットによると、「承認」は、「愛」の承認、「法権利」の承認、「社会的価値評価」の承認に類型化され、この三つの承認に満たされていることが人間にとって最も充実した状態（「善く生きる」）であり、どれかが欠けている場合、人間のアイデンティティは不安定となり、その状態を克服するために「承認をめぐる闘争」が起こるとされます。たとえば、好きな人に認められることは、その人の人生にとってとても重要な意味を持つものであり、だからこそ、それを得ようと努力する、というわけです。「承認」は、そのような個人的な問題にとどまりません。劣悪な法律が承認されれば、多くの人の生活に悪影響を与えます。その反対に、ノーベル賞を受賞することは、全世界的にその業績が良いものとして認められることです。恋愛や家族関係などのような自分に最も身近な「承認」から、国家間の「承認」まで、幅広い領域がその対象に含まれます。「承認」の具体的な内容については、「哲学（現代人間論）」の授業シラバスなども参考にしてください。			
あなたの学習とどう関わるか 「承認」の問題や哲学の議論は、一般教養としてだけではなく、人間について考える上では切り離すことができないものであり、みなさんがどのような研究テーマを扱う場合にも必ず顔を出してくるものです。また、現在、社会が抱えている諸問題を考える上では、様々な場面で価値観の根本的な捉え直しや多面的な視野が必要となっており、「人間とは何か」を追求する哲学的な物の見方・考え方がますます重要になってきています。自分のテーマを研究していく上で、このような哲学的観点や社会的観点も取り入れながら、自分の考えをさらに深めてもらいます。			
目的 文献を読み、まとめ、発表し、質疑応答をし、議論をし、卒業論文を作成するという過程を経ながら、大学生が身につけるべき基本技能を身につけるとともに、各自が自ら選んだ研究テーマについて考察を進めていく中で、子どもや人間に関する洞察を深め、将来の職業活動に役立てられるようにすることが本演習の目的です。			
方法・授業計画 共通文献あるいは各自の関心のある文献を読み、まとめ、発表し、質疑応答をし、議論をする、というのが基本的な演習の進め方です。3年では、まずは共通文献の読解からはじめて、とくにすべての基礎となる「本の読み方・まとめ方」をしっかりと身につけてもらいます。その後は、各自が興味を持った文献について、それぞれ自分で内容をまとめ、発表してもらいます。4年でも、卒業論文に関わる文献の発表が基本となりますが、文章の書き方まで含めて指導します。上記の内容も含めて、進め方等については、参加者の意向も確認にした上で、最終的に決定します。			
担当教員からのメッセージ			
大学3・4年は、勉強の基本的技能や、幅広い教養を身につけることができる最後の機会になるかもしれません。この演習では、私が担当する授業科目（哲学概論、哲学（現代人間論）、倫理学概論、ジェンダー論、現代基礎教養、総合演習、子ども発達学、公民科教育法）の知を集約し、必要な場合には新たに補いながら、勉強の方法も含めて、あなたの研究および卒業論文作成のサポートをします。しっかり勉強しようとする意欲のない人は、本ゼミ生として「承認」できませんので、よろしくお願ひします。			